

# 理学部の発展を示すプロット

和田 昭 允

理学部の活動度を示す指標として、科学研究費及び外国出張の年度変化をプロットして見ました。

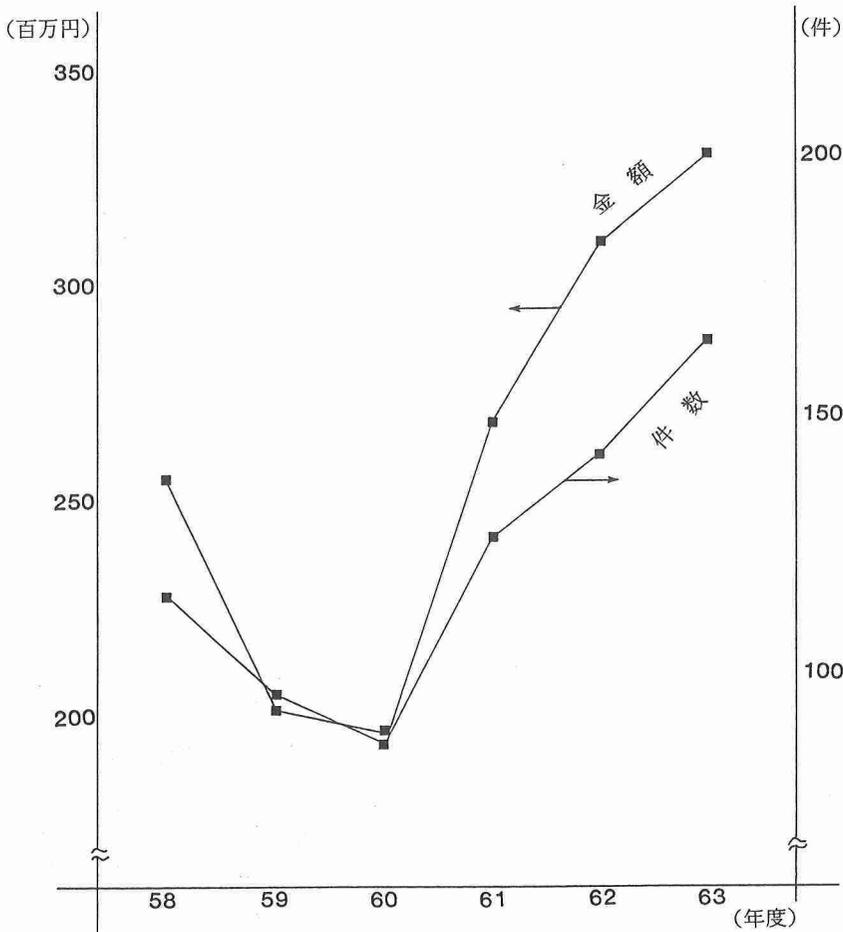
科研費は変動の大きい特別推進等は除いてあります。額と件数とも58～60年にかけて、不可解な低下を示していますが、それ以後は目ざましい上昇を見せています。また、海外出張数は理学部の国際的活躍を示すものですが、これも伸びてきており、特に嬉しいことには、若い層の出張数が著しく増加しているのです。

ここには示しませんでした。学内の他部局との比較を講座・部門当りの量で行っても、理学部

はトップグループの中でも上位に入ってます。とくに、外国からの費用による出張数では理学部が断然抜きんでいます。これはやはり理学という学問が世界を相手にしたものであり、理学部での研究が国際的に大きな関心をもたれていることを定量的に示していることと思います。

最後に、理学部における活動の急速な活発化は、事務関係者に大きな負担増となって来ています。研究者もこの点を理解して、事務手続などの円滑化に充分配慮して下さい。事務方の苦勞をいつも見ている者としてお願い致します。

理学部における科学研究費（一般A+B+C+奨励研究）の額および件数の年度変化



理学部における海外出張の年度変化

